

令和6年度 広島県連合小学校長会 活動方針

広島県連合小学校長会は、永年にわたり、学校教育と学校経営に対する真摯な研究と実践を重ねるとともに、教育諸条件の整備に努め、小学校教育のさらなる充実と発展のために鋭意努力を続けてきた。また、令和3年度より組織上分離して活動を進めている広島市小学校長会とは、今後も連携調整・情報の共有化を図りながら、引き続き本県教育の推進を図っていく。

近年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と国際情勢の不安定化という予測困難な時代の象徴ともいべき事態が生じ、学びの変容がもたらされた。少子化・人口減少、グローバル化の進展、地球規模課題、格差の固定化と再生産など、様々な社会課題が存在する中、Society 5.0 を見据え、これからの社会を展望する上で、教育の果たす役割はますます重要となっている。

こうした時代の要請に応えるため、学校においては、学習指導要領を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」の理念のもとに、一人一人の児童に寄り添った多様で質の高い学びの実現に向けて、児童の個別の状況に応じた「個別最適な学び」による多様な学びの選択肢の提供や、探究的な学びの質の向上等に取り組むことやあらゆる教育活動において日常的にデジタル機器等を活用する環境を整え、デジタル機器等の効果的な活用等を含めた児童の「主体的な学び」を促す教育活動を一層充実させることが重要である。また、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すという考え方も重要である。

我々は、このような現状を深く認識し、「生涯にわたる人材育成」を掲げる広島県総合計画「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」、本県教育施策全般の基本的方向性を整理した「広島県 教育に関する大綱」、さらに広島版「学びの変革」アクション・プランの趣旨を踏まえ、「広島で学んで良かったと思える 広島で学んでみたいと思われる 日本一の教育県の実現」に向け、校長としてより一層リーダーシップを発揮して「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育」を推進し、もって県民の負託に応える学校づくりに努めなければならない。

以上の考え方に立ち、次に掲げる各項を活動の重点とする。

- 1 学校の自主性・自律性を確立し、家庭・地域との目標の共有と連携・協働による学校経営を行う。
- 2 校長としての倫理規範を磨き、より一層リーダーシップを発揮し、信頼と秩序に基づく機動的で活力ある学校体制の確立と校内組織の強化を行う。
- 3 豊かな心や健やかな体の育成、いじめ・不登校等の解消を図る生徒指導体制の充実を行う。
- 4 多様な学習機会と場の提供等を通じた「個別最適な学び」やデジタル機器等の効果的な活用を含めた、「主体的な学び」を促す教育活動を進めることで確かな学力の向上を図る。
- 5 児童の自尊感情や自己効力感を高めるとともに、生命や人権を尊重する教育の充実に努める。
- 6 特別支援教育や「学びのセーフティネット」の充実を図るなど、児童一人一人を大切にする教育を推進する。
- 7 明確な人材育成方針や研修体制の充実により、教職員個々の実践的指導力などの向上に努める。
- 8 自然災害などの防災対策を含めた安全・安心な教育環境づくりを行う。
- 9 「学校における働き方改革」を推進し、教職員のワーク・ライフ・バランスの充実、児童と向き合う時間の確保の教育諸条件の整備・拡充に努める。
- 10 教職員の人的条件整備や処遇の改善に努める。
- 11 校長としての主体性を確立し、会員相互の連帯感を深め、本会の組織強化を行う。